

あかるく
なかよく
たくましく



学校だより

武岡台養護学校平成28年 5月 11日(水)

学校ホームページアドレス
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/Takeokadai-H/top.html>

平成28年度 「笑顔」あふれる学校をめざして！

校長 中村 良一



始業式では、進級への期待と新しい友達や担任の先生方との対面に緊張気味の子供たちも、下校の際には元気一杯の様子でした。また、4月7日(木)の入学式では、小学部23人、中学部22人、高等部41人、計86人の新入生を迎え、全校児童生徒292人、教職員142人でのスタートとなりました。

早いもので、約ひと月が過ぎようとしています。子供たちも徐々に新しい友達や学校に慣れ、元気一杯活動している姿をほほえましく感じる今日この頃です。

さて、今年度は、「『笑顔』あふれる学校にしよう！」という目標を子供たちと約束しました。家庭訪問や学園の先生方との情報交換等も終了し、子供たち一人一人の今年度の目標も決まりつつあります。一日一日が「笑顔」で送れるように、家庭・学園、学校間の連携を密にし、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努めていきたいと考えます。

ところで、校舎の老朽化に伴う改修工事が続いており、高等部棟3階教室に引き続き、今年度は高等部棟2階教室の全面改修が予定されています。いろいろな面で御不便をお掛けすることになりますが、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

～新入生を迎えて～

今年も小・中学部及び高等部に新1年生を迎えることになりました。そこで、新入生に期待することや入学1か月の様子を各学部の1学年主任からお知らせします。

<小学部>

みなさん、よろしくお祈りします！

「御入学おめでとうございます。」「武岡台養護学校へようこそ！」と、たくさんの笑顔と歓声に包まれて入学してきた23人の新1年生。今年は、どんな友達が来てくれたかな？

入学して1か月が過ぎました。何もかもが初めての1年生にとっては、すべてが新鮮です。好奇心一杯の子供たちの瞳はきらきらと輝き、不安そうな表情で、緊張して入場してきた入学式の日姿が嘘のようです。固定遊具、箱車、お絵かき、絵本・・・好きな遊びを見つけた友達がいます。「ねえねえ、一緒に遊ぼう！」と自分から声を掛けて、仲良くなった友達もいます。子供たち一人一人のことはまだまだ分からないことばかりですが、みんな個性が豊かで魅力一杯です。

学校生活は始まったばかり。これからは、もっともっと楽しいことが待っています。「今日も楽しかったなあ！！」と思える時間をたくさん作っていきたいと思います。

みなさん、よろしくお祈りします。

<中学部>

桜咲く4月、今年も個性豊かな子供たちが入学してきました。今年の中学部1年生は総勢22人の仲間たちで始まりました。

明るく元気な1年生。2、3年生の先輩たちが企画した新入生歓迎会では、自己紹介カードをつくり堂々と自己紹介することができました。また、先輩や新しい友達と手をつなぎ一緒に歌った「てをつなごう」では曲に合わせて元気に体を動かし、笑顔で歌うこともできました。

学級や学年合同の授業では、中学部ではどんな学習があるかの説明を聞いたり、どんな教室があるかを見学して回ったりしました。更衣室の使い方も学び、まだダボダボの制服をハンガーに掛け、シャツを畳むなど新しい生活に向けての基本的な生活についても学習しました。その他、いろいろな役割を分担したり、ハッピータイムのグループを決めたりと大忙しの4月でした。委員会活動では1年生ながら委員長、副委員長に立候補した生徒もおり、その積極性に驚かされてしまいました。

4月の後半には、作業学習の班も決まりました。生徒の中には入学体験で作業学習を体験した生徒もおり、作業学習を本当に楽しみにしているようです。作業学習では責任感や作業の決まり等を意識することを通して大人へと成長してほしいと思っています。

新しい中学部の仲間としての活躍を期待し、成長してくれることを祈りつつ、楽しい1年になってほしいと願っています。そのためにも保護者の皆様の温かい御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

<高等部>

「高等部では、どんなことをするのかなあ。」「朝の会はこれまでもやってきたぞ。」「作業学習の班が多いなあ。」ドキドキしたり、ホッとしたりしながら高等部新入生41人の4月がスタートしました。委員会活動、体力づくり、運動会の係活動や紅白編成・・・と1年生から3年生の生徒がグループ別に行う活動もあり一挙に関わり合う友達や先生が増え、多くのエネルギーを費やします。「早寝、早起き、朝ご飯」を合い言葉に生活のリズムを整え、早く学校生活に慣れ、お互いに顔や名前を知り、コミュニケーションのとれる関係を作っていくってほしいと思います。

植草学園短期大学の佐藤慎二教授の話を紹介します。「教育は、3間(さんま)だと言われます。一つめは空間の間。何かその子の出番、役割、空間があるかという空間の間。そしてもう1個の間は、しんどいことはたくさんあるけれど、それがその子にとってもいい時間になる、時間の間。そして、それを認めてくれる仲間がいるということ。」学校でも、家庭でもその所属する集団の一員として「当てにされている心地よさみたいなものを感じ取っていくこと」ができるように連携して取り組んでいきたいものです。